

コレクション 3

2026 年 3 月 14 日 (土) - 6 月 14 日 (日)

Collection 1 Collection 2 **Collection 3**

March 14–June 14, 2026

The National Museum of Art, Osaka

123

コレクション1 コレクション2 **コレクション3**

2026年3月14日^土–6月14日^日

開催時間 | 10:00–17:00、金曜日は20:00まで ※入場は開館の30分前まで
休館日 | 月曜日（ただし6月4日は開館）、5月7日
観覧料 | 一般430円（220円） 大学生180円（70円） ※17歳以下は団体料金
 観覧料別料金（飲食料別）金曜（10:00–20:00） | 一般250円 大学生20円
※高校生以下・年長未満・65歳以上無料（※証明） ※心身に障がいのある方とその付添者1名は無料（※証明）
 ※本展は同時開催の特別展「中西寛之 贈やかとみづのたねに」につぎでも併行、設置の観覧券でご覧いただけます
 観覧料別料金（3月14日） | 一般430円（土）、6月14日（日）、6月15日（日）

主催 | 国立国際美術館 協賛 | 公益財団法人デザイン・エデュケーション振興財団（企画協賛） 認定協子（国立国際美術館 佐藤研光）
 共同企画・実行 | 133-0064-0000（TEL） www.nma.jp/ja/
 〒530-0005 大阪府北区中之島4-2-55 4-2-55 Nakanoshima, Kita-ku, Osaka 530-0005

コレクション 3 は特集展示「反射する都市」と通年展示「コレクション・ハイライト」の二部構成となります。

特集展示では「都市」をテーマに当館のコレクションを紹介します。多くの作家が街や都市生活を主題に、あるいは路上に出て作品を制作してきました。過去に制作されたそれらの作品を現在地点から見つめるとき、時代の特徴なるものがおのずと浮かび上がってくるように思われます。それは、目まぐるしく変貌する都市景観が、社会や経済の状況を如実に反映するからだけではないでしょう。作家たちは都市を鏡のようにして、豊かさや快適さへの欲望、未来への期待や不安といった、自身を含む同時代の人々の内面をも見つめてきました。本展では戦後の空気の色濃い 1950 年代の作品に始まり、2020 年代に制作された作品まで、新収蔵品を含む約 110 点を紹介し、作品がどのような時代を映し出してきたのかを見ていきます。

通年展示「コレクション・ハイライト」では、国立国際美術館を代表する所蔵作品ならびに新収蔵作品を紹介します。古くはポール・セザンヌやマックス・エルンストら、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての実践にまで遡られる当館コレクションを通して、近現代の美術の諸相が浮かび上がってくるでしょう。近年収蔵したヨーゼフ・ボイスや村上隆、モーリー・ギャレスやマリア・ファアラなどの作品を、1 年間通してご覧いただける機会となります。また今年度収蔵したエリザベス・ペイトンの絵画《ジョナサン（ジョナサン・ホロヴィッツ）》を初めて紹介します。

本展の見どころ

1950 年代から 2020 年代までの幅広い作品から「都市」を見つめる

特集展示では、1950 年代の作品に始まり、昨年度収蔵した高田冬彦の映像インスタレーション《Cut Suits》（2023）まで、「都市」をキーワードに幅広い年代の作品を紹介します。

互いのスーツにハサミを入れていく 6 人の男性が登場する高田冬彦の《Cut Suits》は、1964 年にオノ・ヨーコが行ったパフォーマンス《Cut Piece》へのオマージュとなっています。笑顔で優しくハサミを入れていく男性たちの様子は遊び心と官能性に満ちており、彼らはスーツに象徴される男性性や、都市労働者としての役割からも解放されていくかのようです。



高田冬彦《Cut Suits》2023 年
国立国際美術館蔵
©Fuyuhiko Takata, courtesy of the artist and WAITINGROOM

「反射する都市」章構成

第 1 章 不安な都市

戦争の記憶が生々しい 1950 年代、日本は朝鮮戦争を背景に経済復興を遂げ、高度成長期へと突入していきます。かつての焼け野原に建ち並ぶビルや工事現場を見ながら、敗戦による社会の激変を経験した当時の若い作家たちは何を思ったのでしょうか。デモクラート美術家協会やルポルタージュ絵画運動など、戦後の美術運動に関わった作家たちの 50 年代の作品の中から、都市や人々を描いた作品を紹介します。



桂川寛《都市》1959 年
国立国際美術館蔵

第2章 フィールドとしての都市

1960 年代後半から 70 年代はじめにかけて、世界各地の都市で学生運動が高揚し、社会に対する異議申し立てが巻き起こりました。“政治の季節”とも呼ばれるこの時代の動きに呼応するように、路上や街頭が表現者たちの舞台となっていきます。

近代ヨーロッパのヒューマニズムを批判・攻撃し、挑発的な作品によって「治療」しようと 1960 年代から街中や展示会場でのハプニングを繰り広げた工藤哲巳の作品や、1970 年代に 2 度にわたって東京都知事選に出馬した秋山祐徳太子のユーモアあふれる選挙ポスターなど、当時の熱気を感じさせる作品を紹介します。

第3章 うつろう都市

建築技術や素材の発達と経済成長を経て、都市景観は目まぐるしく変貌を続けていきます。過去の歴史を物語る建築物は徐々に姿を消し、かつての都市の面影は人々の記憶のなかに刻まれます。

戦前に建てられたモダニズム建築が 1980 年代に解体される現場を記録した宮本隆司の写真、森山大道が故郷・大阪に戻り撮影した写真など、変貌する都市の様相を捉えた作品を紹介します。

第4章 ネガとしての都市

都市景観の変化と時を同じくして、経済的な影響を受ける後背地でも、開発により風景は変貌していきます。写真家の畠山直哉は、日本各地の石灰石採掘の現場を撮影した写真集『LIME WORKS』に寄せた文章の中で、「鉱山と都市」を写真の「ネガとポジ」のような関係と表現しました。畠山の言葉を借りるならば、開発につれて変貌する郊外や地方の風景もまた、「都市のネガ」のような存在と言えるかもしれません。畠山直哉の「ライム・ワークス」シリーズ、ダムや造成地の風景を審美的に写した柴田敏雄の写真など、都市の影響を受けて変貌してきた地域や風景を主題とする作品を紹介します。

第5章 記号化する都市

大量消費が日常となった現代の都市生活者は、広告や商品といった、豊かさや快適さ、便利さの記号に日々囲まれています。大量に廃棄されるゴミを漫画のようなポップな線と複雑な塗り分けによって描いた森千裕の絵画、草間彌生による美術作品として 2009 年に発売された携帯電話など、消費されるモノや経済活動を担う人々を見つめながら、都市生活の隙間に芸術の可能性を見出す作品を紹介します。



秋山祐徳太子《東京都知事立候補ポスター》
1979 年 国立国際美術館蔵



森山大道《大阪》1997/2010 年
国立国際美術館蔵
© 一般財団法人森山大道写真財団



畠山直哉《ライム・ワークス #17610》
1991/2002 年
国立国際美術館蔵
©Naoya Hatakeyama



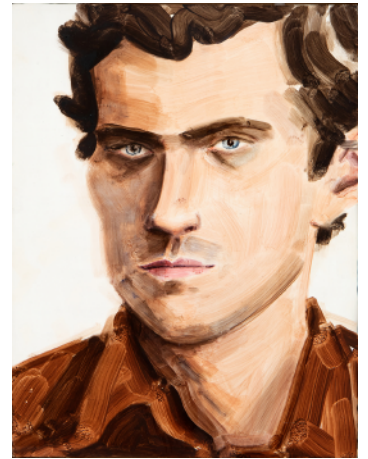
森千裕《ピン・カンの日》2009 年
国立国際美術館蔵

コレクション・ハイライト

2025 年 4 月に始まった「コレクション 1」より、年間を通じて作品を紹介する「コレクション・ハイライト」のセクションを設けています。作品保全の観点から毎回数点の展示替えを行い、今回の「コレクション 3」より、新収蔵品のエリザベス・ペイトン《ジョナサン（ジョナサン・ホロヴィッツ）》を当館では初めて展示します。

アメリカ出身のエリザベス・ペイトンは、1990 年代に欧米の新たな具象絵画を代表する画家として注目を集めて以降、現在に至るまで第一線で活躍を続けてきました。友人であるアーティストのジョナサン・ホロヴィッツの肖像を描いた本作は、ペイトンの作品によく見られる、比較的小さなスケールのキャンバスを用いて描かれ、その特徴である独特の親密さとともに、こちらを見返すホロヴィッツの瞳の強さが印象的な作品です。

ぜひ会場でご覧ください。



エリザベス・ペイトン 《ジョナサン（ジョナサン・ホロヴィッツ）》
2005 年 国立国際美術館蔵
©Elizabeth Peyton. Courtesy the Artist and Sadie Coles HQ, London.
Photo: Katie Morrison

出品作家 ※変更となる場合があります

特集展示「反射する都市」

瑛九、加藤正、泉茂、澤野井信夫、小野十三郎、靉嘔、桂川寛、石井茂雄、池田龍雄、尾藤豊、工藤哲巳、安齊重男、赤瀬川原平、栗津潔、秋山祐徳太子、森山大道、宮本隆司、安東菜々、大島成己、松江泰治、畠山直哉、林孝彦、柴田敏雄、ミリアム・カーン、ヤノベケンジ、高田冬彦、落合多武、草間彌生、森千裕、ジャック・レイルナー、トーマス・シュトゥルツ、マイク・ケリーほか

通年展示「コレクション・ハイライト」

ジャン（ハンス）・アルプ、ドナルド・ジャド、エミリー・カーメ・ウングワレー、マックス・エルンスト、オノ・ヨーコ、河原温、モーリーン・ギャレス、ジョゼフ・コーネル、ポール・セザンヌ、リュック・タイマンズ、ニコラ・ド・スタール、ソピアップ・ピッチ、マリア・ファアラ、ヨーゼフ・ボイス、キム・ボム、ミハエル・ボレマンズ、アグネス・マーチン、ジョアン・ミッチェル、村上隆、ヤノベケンジ、シェリー・レヴィーン、やなぎみわ、エリザベス・ペイトン

会 期	2026 年 3 月 14 日（土）- 6 月 14 日（日）
会 場	国立国際美術館 地下 2 階展示室（〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55）
開館時間	10：00 - 17：00、金曜は 20：00 まで ※入場は閉館の 30 分前まで
休 館 日	月曜日（ただし、5 月 4 日は開館）、5 月 7 日
主 催	国立国際美術館
協 賛	公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団
企画担当	武本彩子（国立国際美術館 任期付研究員）

観 覧 料 一般 430 円（220 円）、大学生 130 円（70 円）

（ ）内は 20 名以上の団体料金

高校生以下・18 歳未満・65 歳以上無料（要証明）

心身に障がいのある方とその付添者 1 名無料（要証明）

夜間割引料金（対象時間：金曜の 17：00 - 20：00）一般：250 円 大学生：70 円

本展は特別展「中西夏之 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」（会期：3 月 14 日 - 6 月 14 日）の観覧券でご観覧いただけます。

関連イベント

ギャラリー・トーク等開催予定。詳細は決まり次第、当館ウェブサイト等でお知らせします。

一般のお客様からのお問い合わせ先

国立国際美術館 TEL: 06-6447-4680（代表） URL <https://www.nmao.go.jp/>

交通アクセス

京阪電車中之島線「渡辺橋駅」（2 番出口）から南西へ徒歩約 5 分、Osaka Metro 四つ橋線「肥後橋駅」（3 番出口）から西へ徒歩約 10 分、J R「大阪駅」、阪急電車「大阪梅田駅」から南西へ徒歩約 20 分、J R 大阪環状線「福島駅」から南へ徒歩約 15 分、J R 東西線「新福島駅」（2 番出口）、阪神電車「福島駅」（3 番出口）から南へ徒歩約 10 分、Osaka Metro 御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」（7 番出口）から西へ徒歩約 15 分

大阪シティバス「大阪駅前」から、53 号・75 号系統で、「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約 3 分（お帰りの JR 大阪駅方面最寄バス停は「渡辺橋」になります）

※当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。

※心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

広報画像ご使用にあたってのお願い

本展の広報を目的とした場合に限り、ご使用いただけます。「広報画像申込書」にて申請していただきますようお願いいたします。

「広報画像申込書」は、国立国際美術館のホームページからダウンロードしていただけます。

国立国際美術館「プレスの方へ」 URL <https://www.nmao.go.jp/press/>

画像の使用にあたって、次の点をお守りいただきますよう、お願いいたします。

- ・画像と一緒にお送りするキャプション及びクレジットを明記してください。
- ・画像のトリミングや、画像に文字を重ねての使用はできません。
- ・インターネットに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。
- ・会期・会場・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で広報担当までメールまたは FAX にてお送りください。
- ・掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛にお送りください。
- ・インターネットに掲載した場合は、URL をお知らせください。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。使用後は画像データを破棄してください。

広報に関するお問い合わせ先

国立国際美術館 広報担当 太田道子

E-mail: kouhou@nmao.go.jp TEL: 06-6447-4671（直通） FAX: 06-6447-4699